



## ◆当面する重点作業

1. 本年は裏年と考えられ花芽量が少なく、不受精、凍霜害低温の影響もあり、ふじを中心に着果量が少なめだが、隔年結果防止のため、早めに満開30日(5月中旬)までにあら摘果を終了させる。仕上げ摘果の作業を丁寧に行い品質の向上と数量の確保をはかる。摘果時はよく見て果形・肥大の良いものを残す。
2. 支柱立てを実施し、高品質生産の基礎を固める。  
降雨等により果実表面の乾きが悪いとサビ果の発生を助長するので、風通しを良くする。
3. 曇天が続き軟弱徒長になるようであれば、スミクリン(5袋/10a)を施用する。
4. 各品種の袋かけを適期に行う。
5. 害虫(マイマイガなどのケムシ・イモムシ類)の発生が多い場合は、摘果時に合わせて捕殺と殺虫剤の散布を行う。
6. 毎年メンチュウの発生が見られる所は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
7. うどんこ病の被害枝は2~3芽多く切り取り、除去を行う。
8. フラン病の枝は、見つけ次第、切除・治療・焼却を適切に行う。多発傾向(特に胴フラン)
9. **野菜・花の収穫が始まっているので、周囲の圃場に十分注意して農薬散布をする。**

## ◆不受精(カラマツ)の発生について

1. ふじを中心に不受精(カラマツ)が発生している。
2. 発生が多い場合の対策
  - ①結実の良い園・品種から作業を行う。
  - ②中心果が無い場合は側果で対応し着果量確保を優先する。
  - ③着果が少ない場合は樹勢が強くなりやすい。強い枝の先には品質が劣っても着果させ樹勢を抑える。
  - ④カルシウム欠乏になりやすいのでカルシウム剤の葉面散布を行う。

## ◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期・・・5月19日(金)~5月24日(水) 散布日 月 日
2. 調合量・・・水1000l当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	
アントラコール顆粒水和剤	200g	黒星病・黒点病・斑点落葉病・すす斑病・すす点病	45日前まで
(ⓐダイアジノン水和剤34)	100g	シクイムシ類・リンゴワタムシ・キンモンホリガ	30日前まで

3. 散布量・・・10a当り⇒5000l以上
4. 散布上の留意事項
  - ①腐らん病の多い場合は、ベンレート水和剤3,000倍(水1000l当り33g)またはトップジンM水和剤1,500倍(水1000l当り66g)を加用散布する。
  - ②カイガラムシ・シクイムシ類・リンゴワタムシ・ケムシの発生園では、ダイアジノン水和剤34の1,000倍(水1000l当り100g)を加用散布する。
  - ③雨が多い場合は、通常展着剤に代えて固着性展着剤アビオンE1,000倍(水1000l当り100ml)を使

用しても良い。

④果面保護のためにストピットⅡ500倍（水1000当り200g）を加用散布してもよい。

⑤祝と人着つがるは、収穫前日数の関係上、時期が遅れないように散布をする。

⑥近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。

硫マグ25（2袋/10a）の施肥やグリーントップ70の500倍（水1000当たり200g）の葉面散布を薬剤散布に合わせて2～3回行い発生を抑える。

⑦風通しの悪い園や温度が低い場合の散布は、乾きが遅くなりサビ果になりやすいので、早朝の散布を遅らせる。

### ◆園地の除草・ハダニ対策について

ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草(刈取り)を励行する。

1. 刈取り敷草化を基本に行うが、ごく浅い中耕をしてもよい。

2. 除草剤はバスタ液剤又はザクサ液剤を使用する。

①草丈30cm以下なら10a当り、水100～150ℓに液剤500ml処理する。

②草丈があまり長いと効果が落ちる。

③多年生(宿根性)雑草には100～200倍液で散布する。

④ワイ性樹などでは葉に飛散しないよう注意する。

※なお、殺ダニ剤の樹上散布3～5日前に草を刈り取るか、除草剤を散布すると防除効果が高い。

樹上散布後に除草剤の散布や、草刈りを行うと事後の発生が多い。

### ◆袋かけについて

下記の日程を目安に準備を進める。果実への病害虫発生防止の為、薬剤散布をしてから袋かけを行なう。

品種	被袋時期	摘要
つがる	落花30日頃から(5月中下頃から)	人着限定・早いと生理落果の危険あり
ふじ	6月下旬～7月10日頃まで	一挙除袋用袋(有袋期間は85日位)

※ふじの一挙除袋用袋は、被袋が早いと地色が抜けすぎてかえって着色が遅れる。

※ふじ一挙除袋用袋は、作業が間に合っても早くかけ過ぎない

※ふじの一挙除袋用以外の袋は、被袋を上記より時期より10日早める。

### ◆新しい化栽培について

①あら摘果を急いで行う。 ②仕上げ摘果は幹の太さに応じて着果させる。

③本植えした樹の主幹先端で、新梢の伸びが良い場合は腋芽も着果させ、仕上げ摘果で落とす。

④フェザー先端の伸びが強い場合は、伸びが止まるまで仕上げ摘果しない。

⑤フェザーの誘引を行い下垂させる。

⑥目標樹高に満たない場合は主幹延長枝の固定と摘果を行い、伸長を促す。

### ◆排水対策について

降雨が多い場合は排水対策を行い、根腐れを防ぐ。

特に新しい化栽培は滞水に弱いので園や葉が黄色くなって落葉している園では注意する。

### ◆干ばつ対策について

降雨が少なく、晴天が7日以上続き乾燥状態になっている場合は20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。

敷きワラマルチを行い、水分の蒸散を抑える。

草丈が長い場合は草刈りを行う。なお、土が見えるほど刈った場合は逆に蒸散しやすくなるので注意。

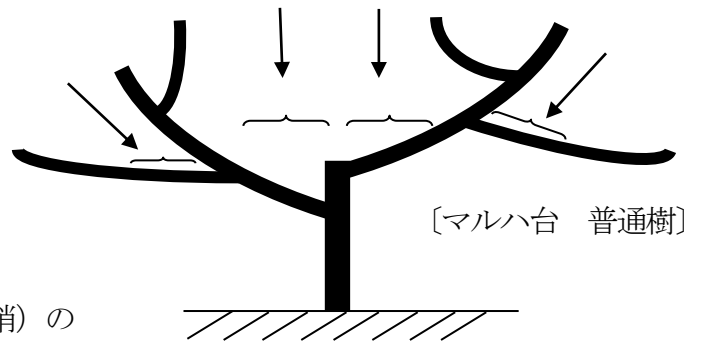
### ◆新しい化栽培の着果量について 上限(目安)

直径	幹周り	断面積	ふじ以外 着果数	ふじ 着果数	250本植 10a
2.5	7.9	4.9	17	20	1.5
3.0	9.4	7.1	25	28	2.1
3.5	11.0	9.6	34	38	2.9
4.0	12.6	12.6	44	50	3.8
4.5	14.1	15.9	56	64	4.8
cm	cm	cm <sup>2</sup>	個/樹当	個/樹当	トン

**接木部(こぶ)から20センチ上の位置を測る**  
 上限の個数以上に着果させると隔年結果しやすい  
 少なすぎる場合は樹(新梢)が伸びて花芽が作れないので注意

### ◆新梢管理について

1. 主枝、垂主枝や側枝基部の徒長枝(新梢)は全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。  
⇒ 計画的に切り(欠き)取る。
2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。  
お盆の頃に切り取る。
3. 6月中旬にダニの防除と合わせて徒長枝(新梢)の処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。
4. 図の矢印部分(主枝・垂主枝の基部)の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



### ◆カッターりんご講習会並びに出荷希望とりまとめについて

カット販売用加工りんごの荷受について、下記日程で行いますので、希望者をご参加ください。

「葉取らずりんご」で出荷が可能で、着色作業(葉摘み・玉回し・反射マルチ)の省力化が図れ、品質は、食味(糖度等)が一定基準より良く、農家詰めオープン箱レベルが目安で、一定の単価で取引されるため、概算販売価格(kg当り125円程度)が読め、経営の安定化が図れる。

詳細は、講習会で説明致します。

- 1) 取扱品種: 秋映・シナノスイート・シナノゴールド・サンふじ
- 2) 出荷希望取りまとめ: 講習会にて取りまとめ用紙配布。

締切6月14日(水)まで。計画出荷のため、以降の申し込みはできません。

※都合で参加できない場合等、講習会以降に、果樹技術員に説明を受けていただく事も可能です。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月30日	火	午前10:30	真島フルーツセンター	根津

- 3) 提出先・・・各流通センター共選所果樹技術員まで



《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311